

7-4 北陸・近畿・山陰における地殻変動連続観測
(1996年11月1日～1997年10月31日)

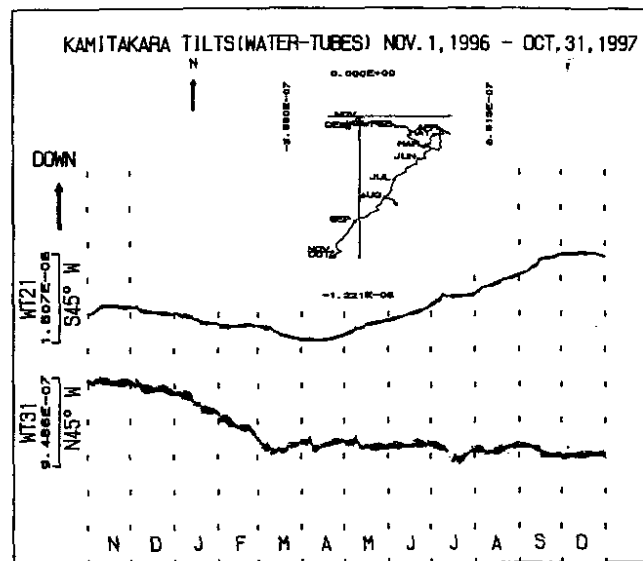
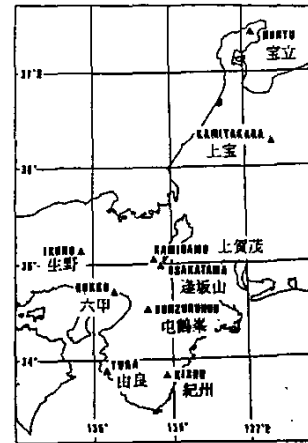
**Continuous Observations of Crustal Deformation in Hokuriku, Kinki and
San-in District (November 1, 1996-October 31, 1997)**

京都大学 防災研究所・理学研究科
Disaster Prevention Research Institute
Graduate School of Sciences
Kyoto University

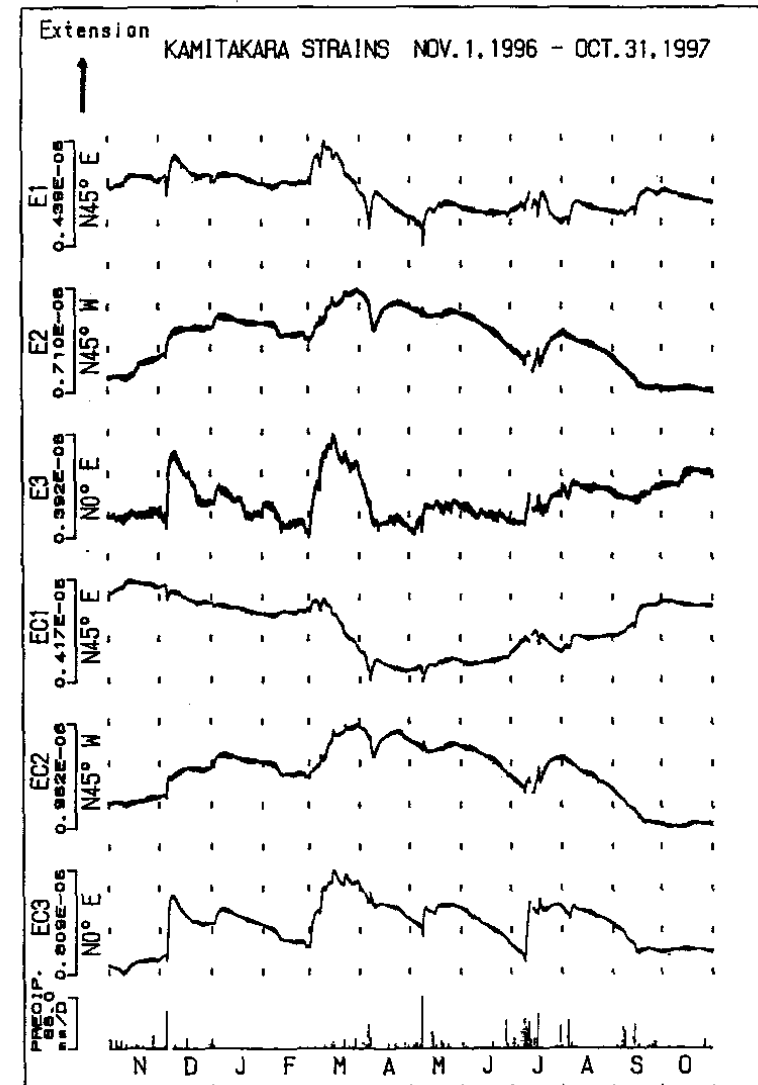
北陸近畿および近畿山陰の両地殻活動総合観測線の上宝、宝立、逢坂山、上賀茂、由良、生野、六甲鶴甲および紀州の8観測点で観測された地殻ひずみおよび傾斜について報告する。

第3図の上宝のひずみに見られる3月頃の急な変化は、融雪にともなう地下水位の変化が原因となって毎年生ずるものである。宝立、由良は観測室が浅く、規則的な年周変化を示している。紀州におけるN132°E方向のひずみは計器の不調であり、ときどき大きな変動を示している。由良における振子傾斜計で観測されたN-S方向の変化(第6図)に見られる8月末の変化は、計器の調整によるものである。同図の紀州における傾斜ベクトルは、方向が約30°しか異なっていないほぼ東西方向を向いた2台の水管傾斜計の記録から合成したものである。このため、南北方向に大きく変化が現れている。第7図の逢坂山のひずみに見られる4月以降の顕著な変動はこの季節に例年現れる降雨の影響である。

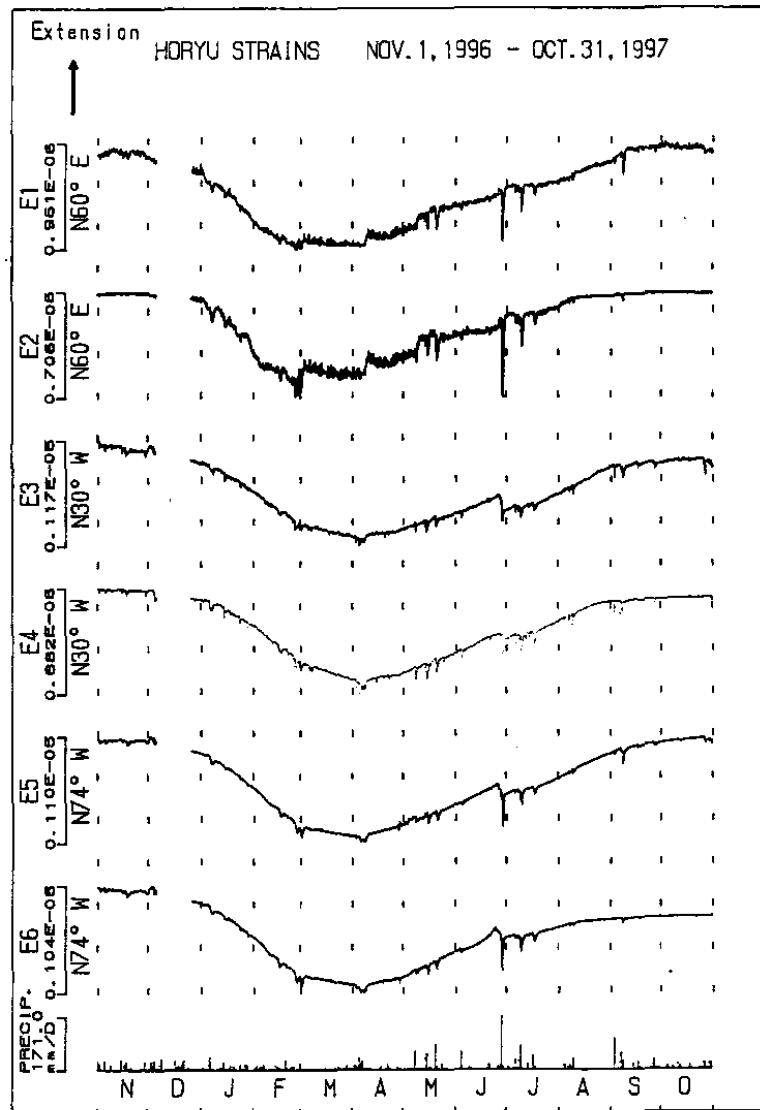
第1図 観測点の位置図
Fig.1 Observation stations.



第2図 上宝における傾斜変化
Fig.2 Tilt change at Kamitakara.

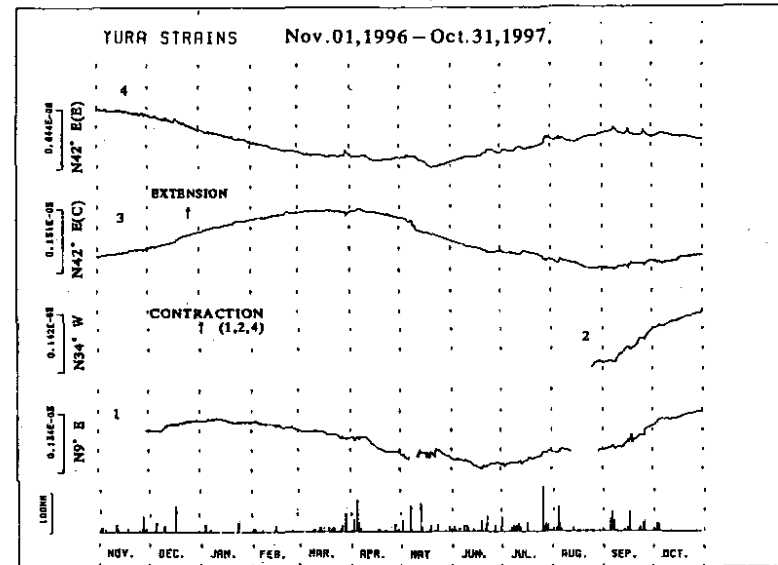


第3図 上宝におけるひずみ変化
Fig.3 Strain change at Kamitakara.



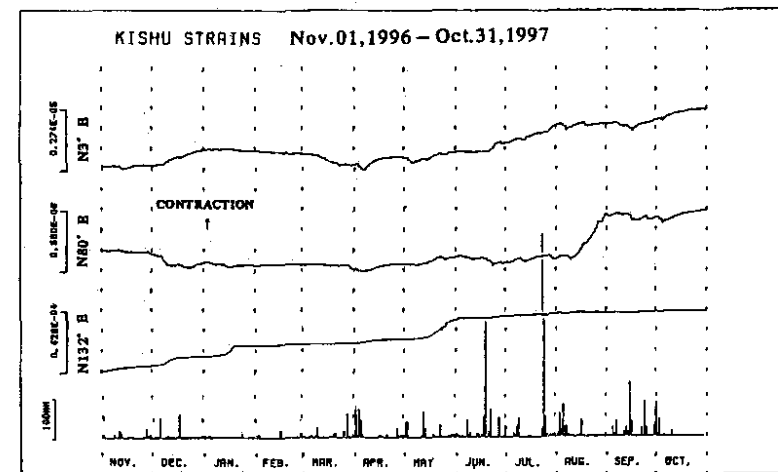
第4図 宝立におけるひずみ変化

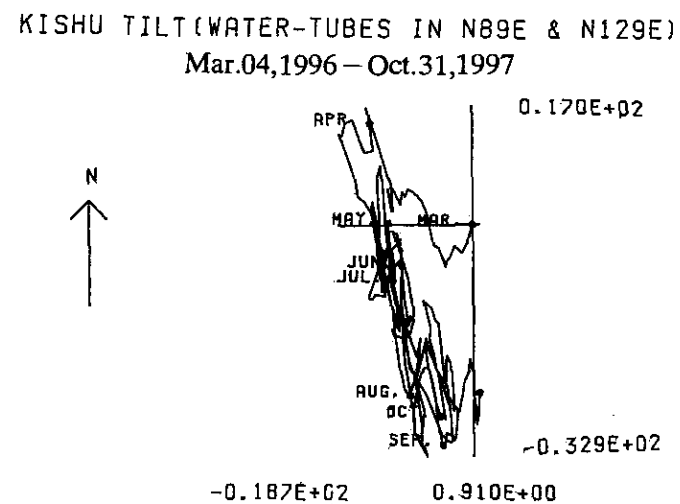
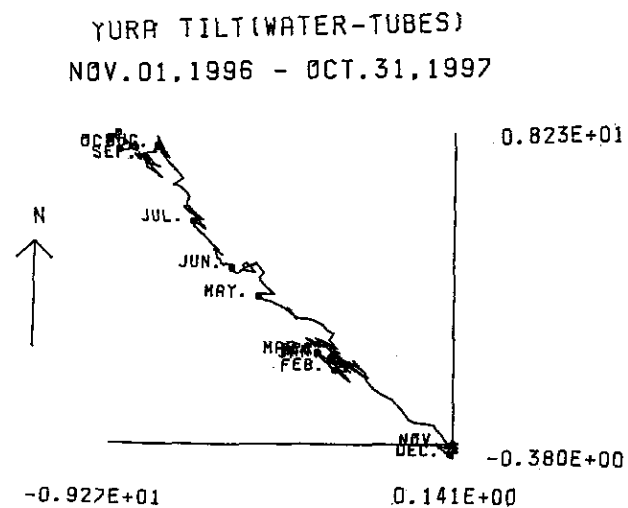
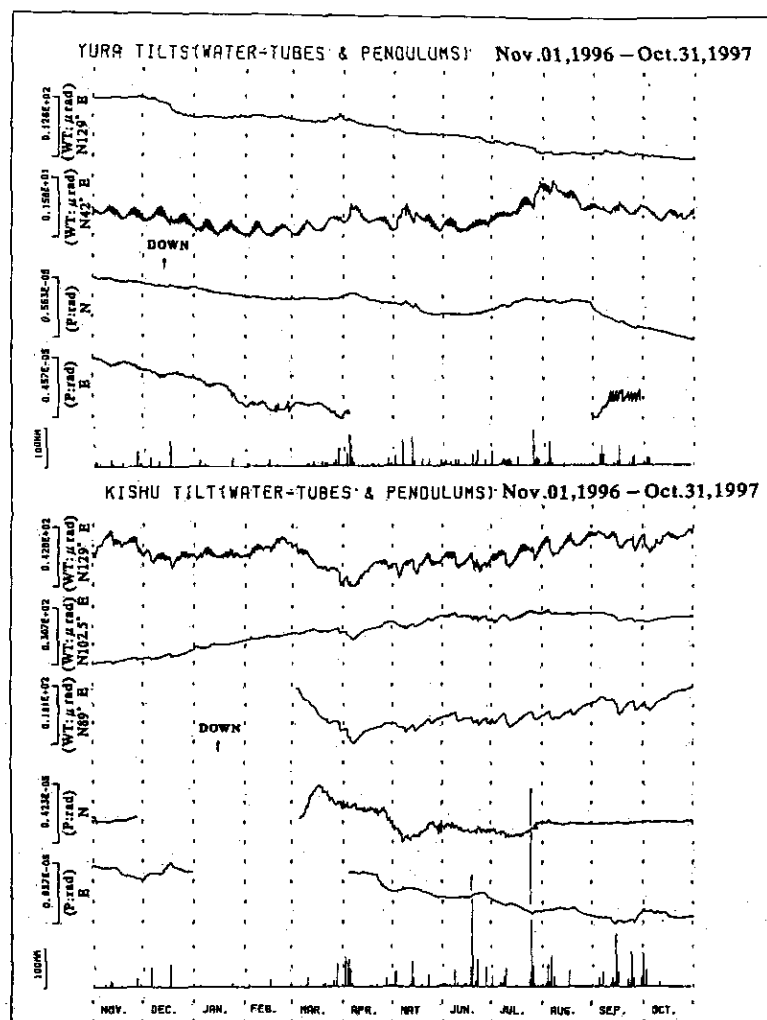
Fig.4 Strain change at Horyu.



第5図 由良および紀州におけるひずみ変化

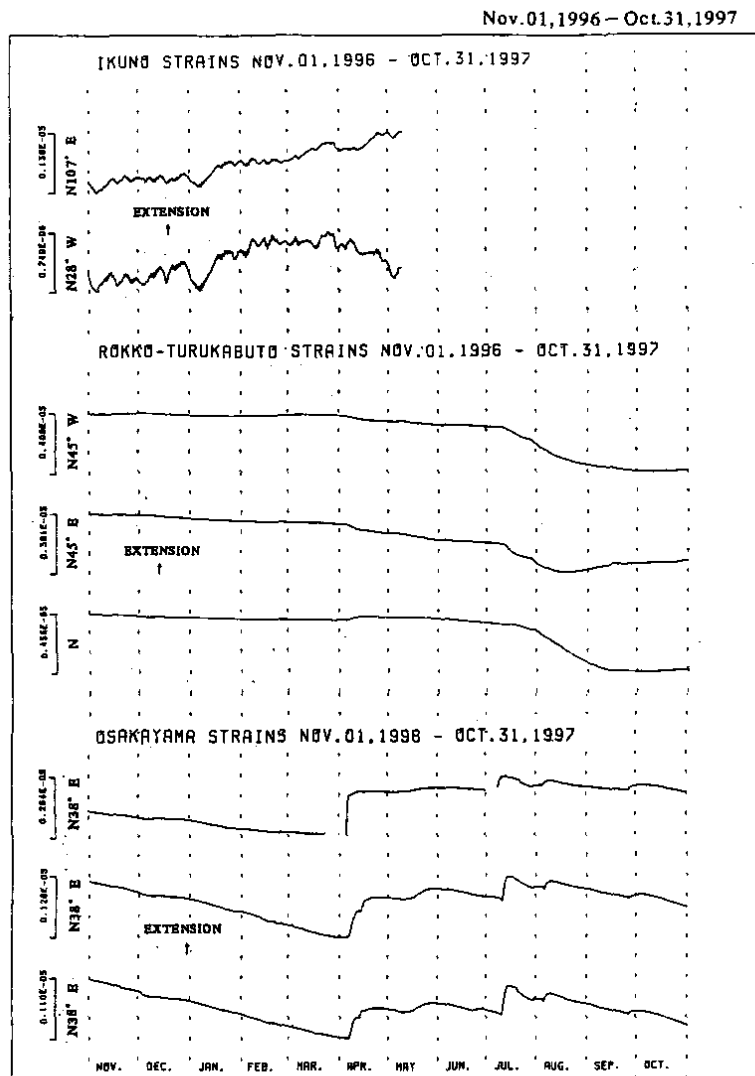
Fig.5 Strain changes at Yura and Kishu.



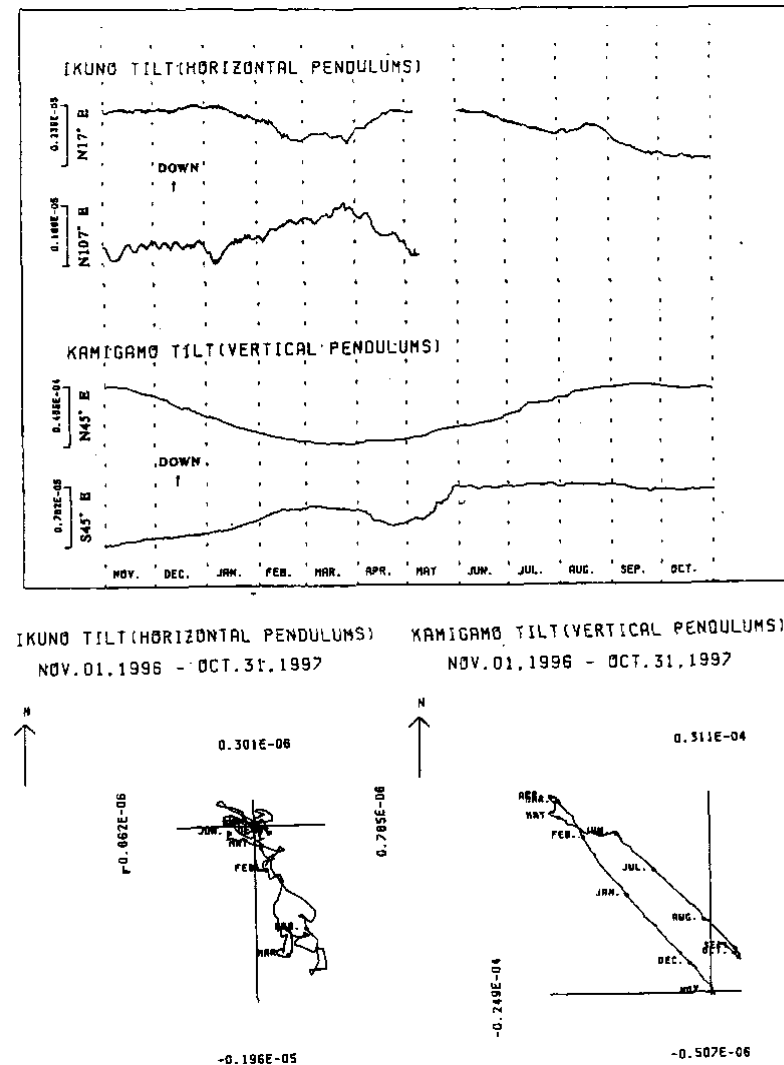


第6図 由良および紀州における傾斜変化

Fig.6 Tilt changes at Yura and Kishu.



第7図 生野・六甲鶴甲・逢坂山におけるひずみ変化
Fig.7 Strain changes at Ikuno, Rokko-tsurukabuto and Osakayama.



第8図 生野・上賀茂における傾斜変化
Fig.8 Tilt changes at Ikuno and Kamigamo.